

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-11C	12-061	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Alcohol consumption and colorectal cancer in a Mediterranean population: A case-control study. 地中海沿岸の集団における飲酒と結腸直腸癌：ケースコントロール研究		
執筆者		
Kontou N, Psaltopoulou T, Soupos N, Polychronopoulos E, Xinopoulos D, Linos A, Panagiotakos D.		
掲載誌		
Dis Colon Rectum. 2012 Jun;55(6):703-10.		
キーワード		
地中海食、アルコール、結腸直腸癌予防効果		
要 旨		
<p>目的： アルコールは発がん補助物質あるいは腫瘍プロモーターと考えられており、様々な研究において飲酒と結腸直腸癌の間に直線的な容量反応関係が示されている。しかしながらいくつかの研究で、中等量の飲酒は心血管疾患と同様の予防効果があることが示唆されている。この研究の目的は、結腸直腸癌と飲酒量および種類との関係进行评估することである。</p> <p>方法： このケースコントロール研究はギリシャのアテネ地域で行われた。初めて結腸直腸癌と診断された全体で連続 250 名の患者と年齢・性別のマッチしたコントロール 250 名がリクルートされた。平均年齢は患者群で 63 歳(標準偏差 12)(男性 147 名(59%)、女性 103 名(41%))で、コントロール群では 55 歳(標準偏差 13)(男性 112 名(44.8%)、女性 138 名(55.2%))であった。食習慣、前年の飲酒量・種類に加えて、社会人口統計学的特性、臨床的特性および生活習慣特性を評価するため、トレーニングを受けたインタビュアーがアンケートを行った。地中海食の実践は、地中海食スコア(MedDietScore；点数が高いほど地中海式食事法に近いことを示す。理論的範囲 0～55) で評価された。</p> <p>結果： 飲酒量 12g 未満/日を reference として、中等量飲酒 (12～35g/日) は、男性でオッズ比(以下 OR)0.35 (95%信頼区間(以下 CI)0.16～0.74)、女性で OR 0.40 (95%CI 0.18～0.91) と、結腸直腸癌の有意な減少傾向と関連していた。大量飲酒 (48g/日以上) は増加傾向と関連していたが、男性は OR 3.45 (95%CI 1.35～8.83) で有意、女性は OR 3.40 (95%CI 0.50～22.92) で有意ではなかった。赤ワイン飲酒は結腸直腸癌のオッズ低下と関連していたが、男性は OR 0.47 (95%CI 0.23～0.96) で有意、女性は OR 0.54 (95%CI 0.23～1.30) で有意ではなかった。それ以外のアルコール飲料の種類と結腸直腸癌との関係に有意なものはなかった。地中海食は独立して結腸直腸癌のオッズ低下と関連しており、男性は OR 0.90 (95%CI 0.83～0.97)、女性は OR 0.87 (95%CI 0.80～0.94) で、全体(P<0.001)で有意であった。</p> <p>結論： 飲酒量と結腸直腸癌の関係は J カーブを示した。大量飲酒の有害な影響を明らかにする際、今回の研究結果から、中等量の飲酒は男性でも女性でも結腸直腸癌に対して予防的効果を及ぼす、そして赤ワインも同様の関係がありそうであることが示唆される。</p>		